

令和三年度福岡県立高等学校卒業証書授与式における

教育委員会告辞

本日ここに、高等学校の課程を修了し、晴れて卒業証書授与式に臨まれている皆さんに、県教育委員会として心からお祝い申し上げます。

さて、この二年余り、私たちの生活や社会は、常に新型コロナウイルス感染症への対応に迫られました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会も一年遅れで開催されたことは記憶に新しいと思います。

感染症の影響で開催すら危ぶまれた中で、世界的なスポーツの祭典が成功を遂げたのは、大会関係者一人一人が「信念」を持って努力を続けたからではないでしょうか。

昭和の初期、我が国では「脚気」という病気が広がっていました。しかし、その予防法が分からず、「脚気が国を亡ぼす」と言われるほど多くの人々が苦しんでいました。

医学博士で文化功労者の香川綾さんは、若い頃、この状況を憂え、「正しい栄養知識を広め、病気を予防することも医師の使命である」という信念を持って困難な研究に取り組み、遂に胚芽米が脚気の予防に有効であることを明らかにしました。

まだ女性の社会進出が珍しい時代であり、研究所で多くの不合理な扱いを経験した香川博士は、「自分がここで何を学ぶか、しっかりした自覚がなければとても耐えられなかった」と後に語っています。

皆さんも、これから困難に直面して悩んだり、自信を失ったりすることがあるかもしれませんが、しかし、自分が扱って立つことのできる強い信念を持っているか否かで、その後の生き方や働き方は大きく異なるでしょう。

「自分がやりたい事、やらねばならない事があると、苦労や困難は二の次になる。山や谷があってもこれに立ち向かっている方が充実した毎日が送れる。」

これも香川博士の言葉です。
これからの時代は「予測が困難」と言われます。

高校生活で得たかけがえのない友人や恩師の言葉、学校行事の思い出などを糧として、是非、自分のやりたい事や、やらねばならない事に、信念を持って、かつ、自由な発想で取り組んでください。

皆さんの努力が、これから我が国の進むべき未来を照らす灯りとなることを心から願っています。

結びに、今日まで熱心な御指導を賜りました校長先生をはじめとする先生方、また惜しめない愛情を注ぎ、慈しみを育んでこられた保護者の方々、並びに関係各位の御協力と御支援に対し、深甚なる敬意を表するとともに、卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝して、告辞とします。

令和四年三月一日

福岡県教育委員会